

第6章 台湾における農林水産物・食品の供給状況

○ 本章のポイント

本章では、台湾における農林水産物・食品の供給状況を紹介し、今後の日本産品の輸出検討の参考になればと考える。

以下の2つで構成している。

- I. 農林水産物・食品の国内供給状況
- II. 輸入農林水産物・食品の状況

I. 農林水産物・食品の国内供給状況

台湾の耕地利用率は111.4%で、食料自給率は83.1%と高い。特に果実類は亜熱帯にあるため、その種類・量も豊富である。

II. 輸入農林水産物・食品の状況

台湾の農産物は、輸出入の金額ベースでは輸出より輸入が高い。台湾は、文化、ファッションなど強く日本の影響を受けていることから、日本の農林水産品・食品を受け入れる土壌が他の国・地域以上に強い。

I. 農林水産物・食品の国内供給状況

台湾は、平地は 26%、山地が 74%である。耕地面積は約 86 万ヘクタールで、このうち水田が 52%、畑地が 48%である。豊富な雨量と温暖な気候から多毛栽培が行われ、耕地利用率は 111.4%であるといわれている。

食料自給率は 83.1%で、肉類、水産類は 100%超であるが、穀物類 48.6%、野菜類 96%、乳製品は 27.2%となっている（1996 年時点）。

国民 1 人当たりの米、麦消費量は、それぞれ 70kg、34kg であり、日本の 75kg、42kg と比べると若干低い（1993 年時点）。

農家の動きとしては、米作をはじめとする土地利用型作物から、温暖な気候を活かしての施設園芸・花樹栽培など集約的高生産性作物へのシフトがみられる。

台湾は豊かな土壌と気候に恵まれており、先進的な栽培技術と農業従事者の努力により、一年を通じ良質で安全性の高いさまざまな果物を生産することができる。果樹作物は、30 種余りにのぼり、主なものは以下のようなものである。

パパイア、グアバ、ココナツ、ロンガン、ライチ、ぶどう、すもも、もも、りんご、オレンジ、なし、パイナップル、スターフルーツ、バンレオシ、メロン、グレープフルーツ、ザボン、うめ、バナナ
--

なお、果実の生産は自然災害を受けやすく、生産量・品質が不安定になることがある。その場合、需要量に満たない時は海外からの輸入品に頼ることもある。

Ⅱ. 輸入農林水産物・食品の状況

1. 台湾の輸入全貌

台湾農産物は、金額ベースでは輸入の方が輸出より高い（P.72【図6－1】）。

2004年時点、台湾における農産物の輸出入総額は、貿易総額の3.6%を占めており、全体的に見れば高い割合と言えないが、対前年より12.7%の増である。特に輸出の9.8%増に比べ輸入は13.9%増と大きく伸びている（P.72【表6－1】）。

輸入状況を品目別でみると、林産物、水産物はそれぞれ21.5%、17.1%と大きく伸びている。一方、果物、乳製品は、前年よりそれぞれ9.3%、18.0%低下している。果実の輸入減の傾向はここ数年間続いているが、リンゴだけは気候条件の制約から国産量を増やすのは難しく、流通しているリンゴの80%は輸入に依存しているといわれている。リンゴ市場は、今後も米国、チリ、日本、ニュージーランド産が大きなシェアを占めていくものと見られている。

酒類の輸入増は堅調であり11.2%増である。台湾は2002年のWTO加盟に伴い、民間業者の日本酒輸入が解禁され、日本各地の酒造メーカーからの輸入が活発に行われている。いま、日本においては、日本酒の輸出先として非常に注目される地域である（P.72【表6－2】）。

また、台湾は亜熱帯という地理的制約条件から、北方でしか取れない産品（たとえば北海道のまつばがに）への需要は高い。

台湾の消費者は、今後も多彩な食生活を求め、海外からのおいしい農産品、水産品の輸入はますます高まると考えられる。

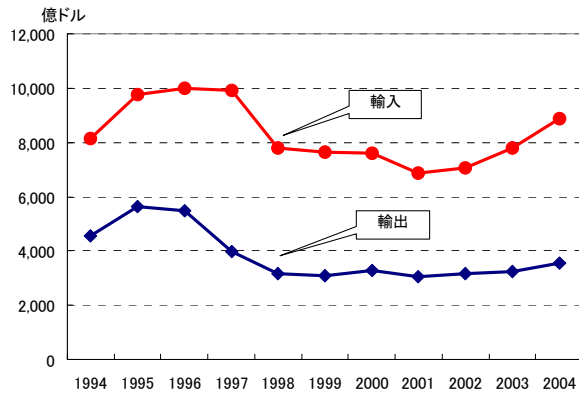


魚介類もよく取れるが、北方海で取れた海の幸の人気の高い。

【日本のカニ】

販売価格：3,000～4,000 円／箱

【図 6－1】台湾農産物輸出入の推移
(2004 年)



【表 6－1】台湾農産物の輸出入状況
(2004 年)

	金額 (千ドル)	対前年伸び率 (%)
輸出入	12,416,334	12.7%
輸 出	3,554,308	9.8%
輸 入	8,862,026	13.9%

出所：『中 華 民 国 農 産 貿 易 統 計 要 覧』台湾行政院農業委員会、2004 年。

【表 6－2】品目別輸出入状況 (2004 年)

項目	輸出 対前年伸び率(%)	輸入 対前年伸び率(%)
農産物	13.5	2.6
穀物	15.5	10.0
野菜	7.7	8.5
果物	6.5	▲ 9.3
酒類	7.8	11.2
畜産物	7.8	4.3
乳製品	13.0	▲ 18.0
水産物	6.1	17.1
林産物	29.4	21.5

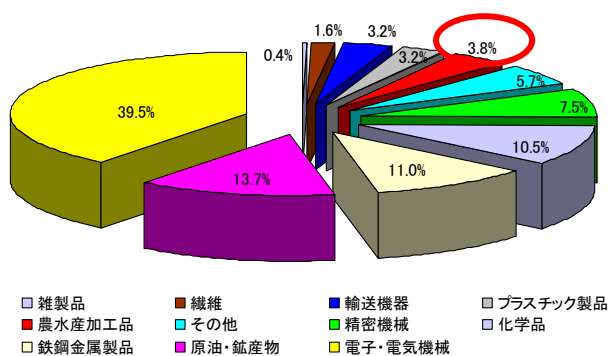
出所：『中 華 民 国 農 産 貿 易 統 計 要 覧』台湾行政院農業委員会、2004 年。

2. 日本からの輸入

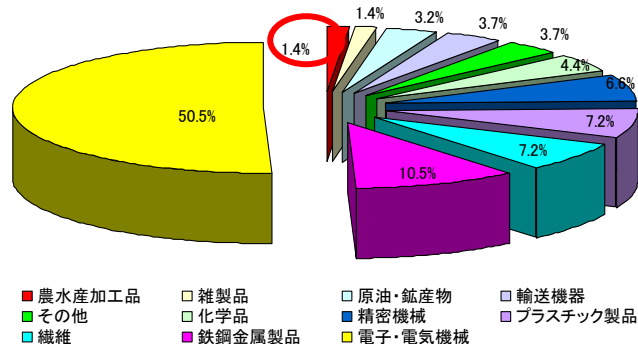
台湾は日本と歴史的な関係が深く、地理的にも日本に近い上に、親日派も多いことから、貿易関係などの経済的交流は強い。2004 年の日台貿易総額は約 585 億ドル（台湾への輸出：419 億ドル、台湾からの輸入：166 億ドル）となっている。

日本の台湾からの農林水産物・食品の輸入は、輸入貿易全体の 3.8%を占めている（【図 6－2】）。一方、日本から台湾への輸出は、輸出貿易全体の 1.4%となっている（【図 6－3】）。日本の農林水産物・食品の台湾市場浸透の余地はまだ十分にあるといえる。

【図 6－2】日本の輸入（台湾から）
（2004 年）



【図 6－3】日本の輸出（台湾へ）
（2004 年）



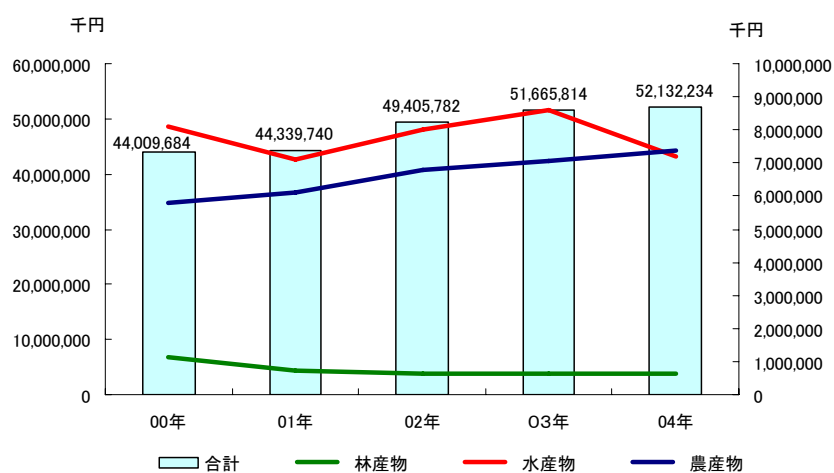
注）農水産加工品は HS 分類における第 1～4 類の合計。

出所：日本貿易振興機構ホームページ

台湾向けの日本農林水産物の輸出推移は、経年的にみると緩やかに伸びている。特に水産物の輸出は、2003 年まで著しく伸びているが、2004 年は減少している（P.74 【図 6－4】）。これは、2003 年まで委託加工のため台湾に水産物を輸出してきた部分が、その後は中国の台頭により委託加工先が中国へとシフトしたものと考えられる。実際に 2004 年の日本から中国への水産物の輸出は、2003 年の 1.7 倍で、200 億 4,400 万円となっている。

日本から台湾への輸出も金額ベースでみると、品目としては、タバコ、豚の皮、アルコール飲料、りんご、チョコレート菓子の輸出が多い。りんごは、2002 年に韓国産りんごの輸入禁止に伴い、日本産りんごの輸出が拡大したという背景がある。なしの輸出は、2002 年の WTO 加盟により、輸入割当制度が緩和され、日本からの輸出が増えた。

【図 6－4】日本農林水産物の台湾向け輸出推移



出所：農林水産省ホームページ

台湾は、米食が主食という食文化も日本と近似している。また、文化やファッションなども日本の影響を強く受けている。日本への関心が非常に高いことから、日本の農林水産物・食品を受け入れる土壌が他の諸国・地域に比べ著しく高いと思われる。